

タスクスケジューラ用自動実行設定

自動実行設定ウィザード画面

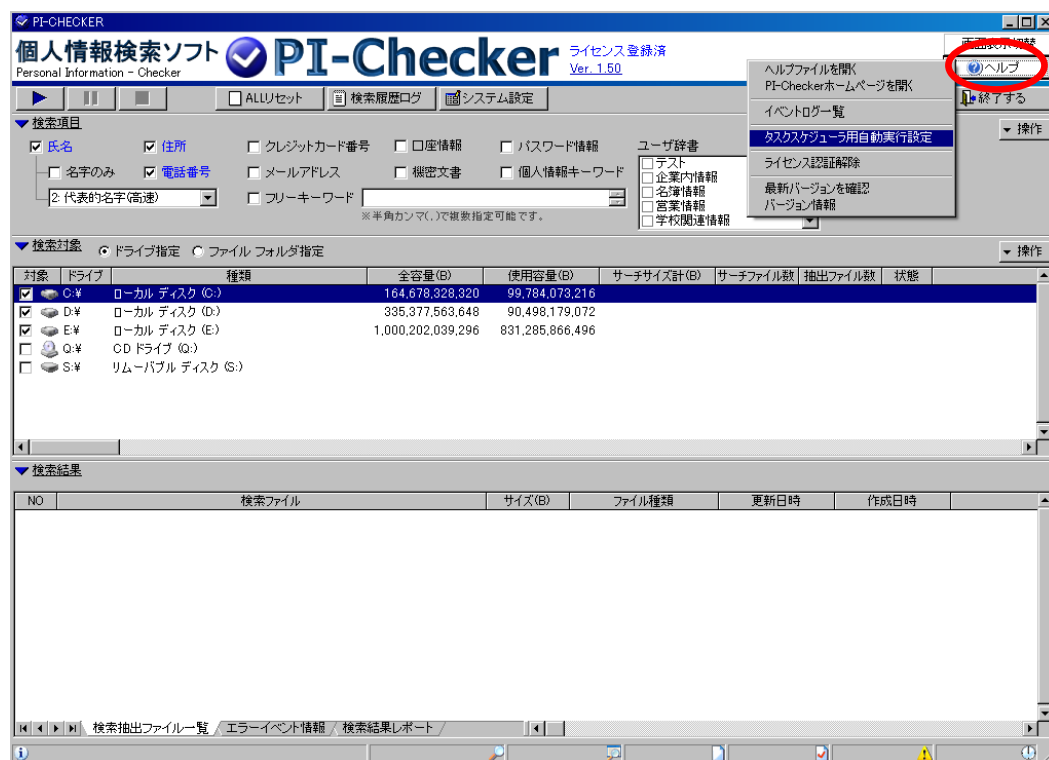
バージョン 1.50 から、タスクスケジューラから PI-Checker を実行できるようになりました。

最大 5 パターンの設定を登録することができ、これによりお客様の運用スタイルにあわせた自動運転が可能になります。

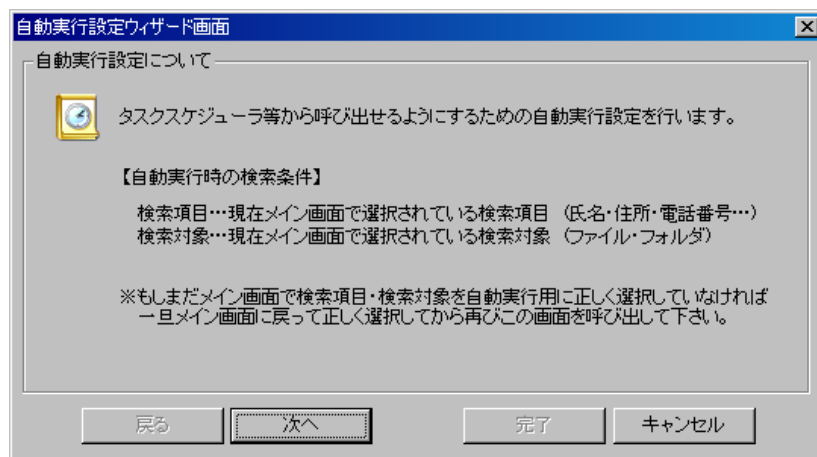
例えば：金曜日の 2 2 時に PI-Checker を起動して全ドライブに対して個人情報の検索処理を開始し、処理終了と同時に報告ファイルをサーバの共有フォルダに保存し、コンピュータをシャットダウンさせるなど。

[自動実行設定方法]

メイン画面のヘルプメニューからタスクスケジューラ用自動実行設定をクリックします



自動実行設定ウィザード画面が表示されます。

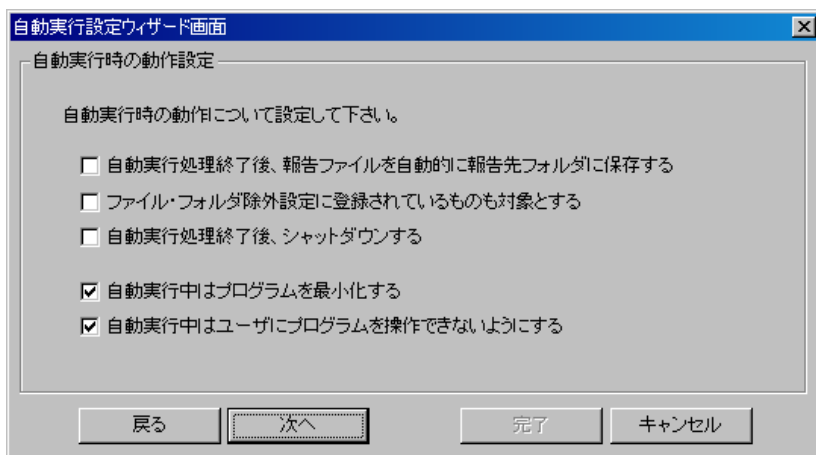


自動実行時の検索条件は、現在メイン画面で選択されている検索項目と検索対象の内容です。

個人情報検索ソフト「PI-CHECKER」資料

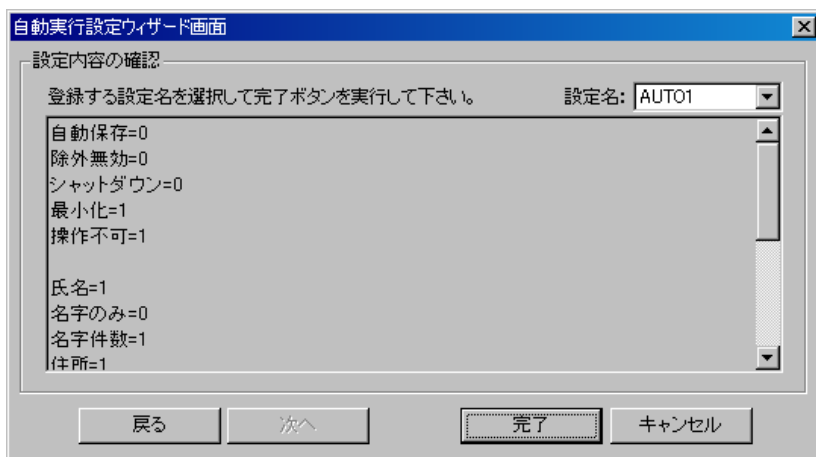
もしまだメイン画面で索項目と検索対象を自動実行用に正しく選択していなければ一旦メイン画面に戻って正しく選択してから再びこの画面を呼び出して下さい。

「次へ」をクリックして下さい。



自動実行時の動作について設定して下さい。

「次へ」をクリックして下さい。



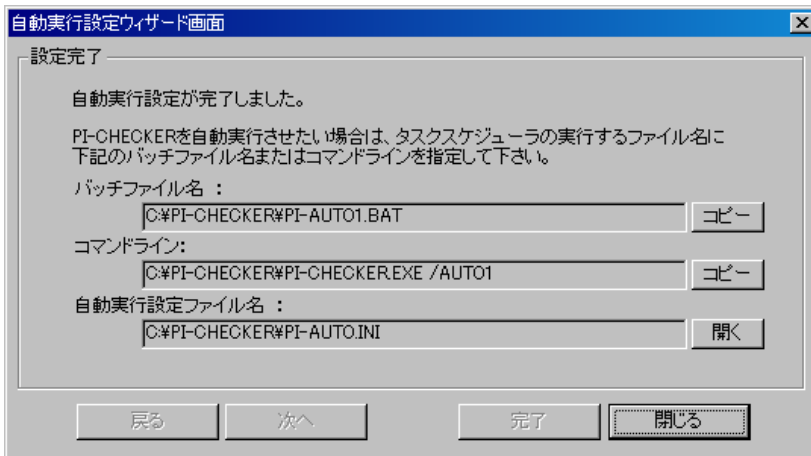
設定内容が表示されますので確認して下さい。

また、自動実行設定は最大5パターンの設定を登録することができます。

通常は、AUTO1を使用してそのまま登録して下さい。

用途に応じてAUTO2～5をご使用下さい。

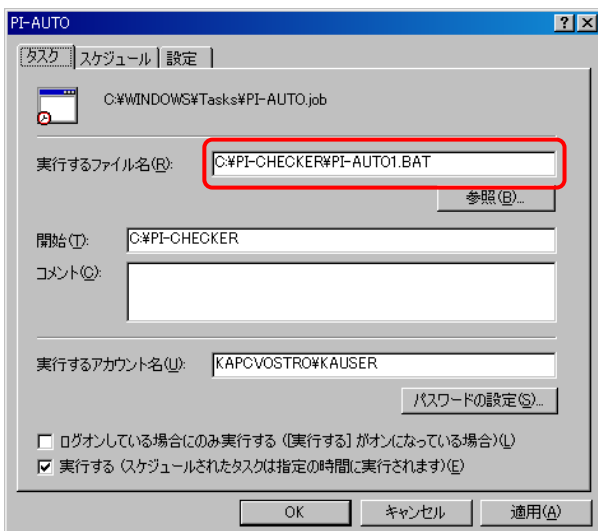
個人情報検索ソフト「PI-CHECKER」資料



自動実行設定が完了するとこのような画面が表示されます。

タスクスケジューラの実行するファイル名に画面に表示されたバッチファイル名またはコマンドラインを指定して下さい。

[タスクスケジューラ画面の設定例]



以上